

包摂型コミュニティ形成プロジェクト

2014 年度活動報告

地域政策学科 仲野 誠

I. はじめに

鳥取県に暮らす外国人登録者数は平成 25 年において約 3,800 人である（表 1）。これは、全国でも在住外国人数が最も少ない自治体のひとつである。その内訳は男性約 30%、女性は約 70%であり、全国的な傾向とは大きく異なり、女性が多いのが鳥取県の特徴のひとつである。

この地域に外国人住民の数が少ないからといって、私たちのこの地域がグローバルな人の移動と無縁だというわけではない。むしろ外国人住民の数が少ないことによる独自の課題がここにはあると考えられる。

かつては「国際交流」あるいは「外国人労働者」などという文脈で「一時的滞在者」として語られることが多かった外国人住民であるが、定住化が進み、そのようなまなざしで現状をとらえることはますます困難になってきている。ここでは彼／彼女らを「地域住民」としてとらえなおすことによって見えてくる地域の課題を考え、多様な住民たちがともに生きられる包摂型コミュニティの形成をめざしたいと考えている。

表 1 鳥取県内外国人登録者数の推移（国籍別）

年	総計	中国	韓国・ 朝鮮	フィリ ピン	ブラジル	米国	その他	国 籍 数	全国総計
10	3,517	739	1,589	467	206	71	445	57	1,512,116
11	3,579	905	1,568	459	150	76	421	60	1,556,113
12	3,856	1,157	1,525	503	150	79	442	63	1,686,444
13	4,374	1,450	1,534	634	136	92	528	61	1,778,462
14	4,376	1,565	1,508	585	126	114	478	62	1,851,758
15	4,490	1,716	1,470	578	118	117	491	61	1,915,030
16	4,739	1,939	1,466	595	86	120	533	63	1,973,747
17	4,961	2,186	1,424	598	81	119	553	61	2,011,555

18	4,959	2,351	1,346	593	40	116	513	63	2,084,919
19	4,751	2,246	1,310	567	30	101	497	67	2,152,973
20	4,482	2,114	1,263	508	24	99	474	69	2,217,426
21	4,268	1,924	1,235	484	27	84	514	65	2,186,121
22	4,144	1,761	1,221	499	21	85	557	72	2,134,151
23	4,031	1,663	1,196	472	19	82	599	70	2,078,508
24	3,906	1,590	1,141	462	15	82	616	72	-
25	3,793	1,419	1,109	484	17	79	685	65	-

(鳥取県文化観光スポーツ局交流推進課調べ)

II. プロジェクトの背景

「包摂型コミュニティ形成プロジェクト」は、現在主に倉吉市を中心に鳥取県中部地域で活動している「Torii フレンド network」(以下「ネットワーク」という外国にルーツをもつ住民たちとその仲間たちによる自助グループとともに包摂型コミュニティの形成を実践的に考えている。

このグループができたきっかけは2009年度から3年間、本学と倉吉市人権政策課が倉吉市で実施した鳥取大学地域貢献支援事業である。2009年度は「わたしたちの隣人と出会いなすために」、2010年度は「越境する女性たち—新しい土地に根を張るという経験」、そして2011年度は「“外国にルーツをもつ人”と“日本人”が住民として出会うということ」という3回のフォーラムを開催した。これらのフォーラムで外国にルーツをもつ当事者住民の声を蓄積していったことが、この自助グループが立ち上がるきっかけになった。

III. 2014年度の活動の概要

2014年度は、通常の例会の開催および日本語教室の開催を続けたほか、次のふたつの事業が特徴的なものとして挙げられよう。

(1) フォーラム「外国にルーツをもつ人の人権——地域で考える共生の課題」

講師：榎井縁（大阪大学未来戦略機構第五部門特任准教授・公益財団法人とよなか国際交流協会理事）

日時：2014年10月4日（土）13:30～15:30

場所：倉吉交流プラザ

以下はこのフォーラムのチラシに記載された趣旨である。

本市では、235人（平成26年8月末現在）の外国にルーツを持つ人たちが私たちの身近なところで

暮らしています。しかし、暮らすうえで言語や文化の違いから様々な問題があります。また、多様な言語、文化、背景を持つ子どもたちがありのままに成長できる地域づくりが望まれています。今、私たちは外国にルーツを持つ人たちが日常生活で困っていることを理解することが求められています。

財団法人とよなか国際交流協会等で、多文化共生社会の実現に向けた提言を行い、全国各地で多様なコミュニティーづくりをめざした活動を展開されている榎井さんをお迎えします。

共に地域に暮らす住民同士が、国籍や民族、文化、言語などの「ちがいを認め合い、支えあう関係を持って暮らしていくことを学び合います。

このフォーラムでは、大阪府豊中市の地域における取り組みに学びながら、地域において包摂型コミュニティを形成するという課題について意見を交換した。

(2) 岡山県総社市の日本語教室視察

日時：2015年2月8日（日）13時～15時

場所：岡山県総社市役所

総社市は平成24年度から平成26年度にかけて文化庁委託による日本語教室を開催しており、地域における「生活者としての外国人」のための日本語教育事業を実施している。そして独自の教材をも開発している。同市は、地域に暮らす「外国人住民が日本での生活を円滑に行うために必要な日本語の習得とコミュニケーション能力の向上を図りながら、地域に密着した生活情報が得られること」を日本語教育の主眼とし、ここ数年間事業を実施してきた。そのような地域における外国人住民を包摂する事業の蓄積がある同市の事業の見学、資料収集およびヒアリングを実施し、本プロジェクトの糧とした。

IV. まとめ

2014年度は日本語教室を中心にプロジェクトを展開した。そのなかで、比較的大きな事業としては、上述のフォーラムの開催と他地域の日本語教室事業の視察があげられる。

「Tori フレンド network」は日本語教室を軸として活動を展開しているが、一方で、外国にルーツをもつ住民たちの生活課題は言語上の問題に限らないのが現状である。たとえば、子育て、学校教育、地域活動への参加、就労、交通手段の利用等、実に多岐にわたる生活課題がある。2014年度は、「ネットワーク」の活動を軌道に乗せるために、意図的に日本語教室に重点を置く活動をしてきた。しかし、それだけでは包摂型コミュニティの形成のごく一部しか担っていない。今後の課題は、外国にルーツをもつ住民および日本人の支援者たちの「居場所」としての機能も兼ね備えている日本語教室の安定的運営に加えて、言語以外の生活課題にも取り組むことである。

そもそも、このグループが重視していることは「当事者の声を聴く」という行為からともに出発することである。それは外国人住民をめぐる課題を仲間とともに手探りで提示し、それをわが身のこととしてみんなで一緒に考えるという一連の協働行為である。

そこにみられるのは「専門家」あるいは「強者」の声に「素人」や「弱者」が従うというパターンリズム的なモデルではない。日本人「支援者」たちも当事者たちに地域の課題を教えられる。その気づきによ

ってそれぞれが自らを回復させながら、地域課題を住民同士でともに考えるきっかけが生まれている。

狭義の当事者は外国にルーツをもつ住民であろうが、この地域に暮らす人は全員当事者である。多様な当事者同士の相互の働きかけによって地域における多様な住民同士の関係性が回復し、それぞれが互いの力を借りながら「地域の当事者」としてともに包摂される地域を再生するきっかけをつくりたい。